

平成 29 年度第 2 回市民交流会を、9 月 30 日(土)に開催しました。

小金井市から 6 名、国立市から 2 名、狛江市から 5 名が参加し、「海外と日本」をテーマに講義、グループ討議及び発表を行いました。

第 3 回市民交流会は、12 月 16 日（土）午前 10 時～狛江市役所にて開催します。



◇講義（国立市男女平等推進市民委員 文 孝淑(ムン ヒョスク)氏）

- ・ 韓国の女性が、伝統的な儒教文化による男性中心社会から、女性の社会進出の法制度整備によって変わってきた背景について紹介
- ・ 日本と韓国の女性の生き方の共通性について紹介

◇グループディスカッション

- ・ 4 グループに分かれ、各グループに外国にルーツをもつ人を 1 名以上配置して、「海外と日本」をテーマとしたグループディスカッション及び意見発表

○参加者（外国にルーツをもつ人）

- ・ ウズベキスタン：【ヴィクトリア】カン ヴィクトリアさん（社会人）女性
 - ・ 韓国：【サエ】クワン サエさん（学生*社会人経験あり）女性
 - ・ インドネシア：【ディナ】インダ S. プラティディナさん（学生*研究者）女性
 - ・ ウズベキスタン：【ディル】グラモフ・ディルシヨドさん（大学院生）男性
 - ・ タイ：【ネーン】タンティブティジャンヤ スティナ(ネーン)さん（大学院 2 年生）女性
- * 【】内は通称

《Aグループ》

<前半>ネーンさん(タイ) / <後半>ディルさん(ウズベキスタン)

【ネーンさんとの主なディスカッション内容】

Q：タイで男女差別を感じたことがあるか

A：あまり感じない。クラスのリーダーは女性が多い。日本では専業主婦が多いが、タイではどの家庭でもベビーシッターがいるので、会社に戻る。

Q：メンタルでリタイアする人々や仕事につけない人について

A：タイでは、障がいのある人々へのサポートがあまりない。目が見えない人が生活するのは大変。

【ディルさんとの主なディスカッション内容】

Q：家族の中での役割の違いについて感じることは？

A：ウズベキスタンは、イスラム化して女性の地位が低いですが、段々と社会進出が増えている。男性はあまり子育てに参加しない。

Q：男女共同参画についてどう思うか。

A：日本に来て 15 年になるが、このように海外体験をした人がウズベキスタンに戻れば変わってくると思う。男女平等については、参加したほうがいい。これは、日本や韓国に来なければ思わなかったことだ。

Q：DVについて

A：ウズベキスタンにも存在するが、女性が我慢している。国のセーフティネットはなく、社会的な支援もない。離婚が増えている。

《Bグループ》

<前半>ヴィクトリアさん(ウズベキスタン)

/ <後半>サエさん(韓国・アメリカ)・ディナさん(インドネシア)

【ヴィクトリアさんとの主なディスカッション内容】

Q：家族構成について(質問：多世代同居か核家族か?)

A：全体的に、専業主婦が多い。多民族国家であるため、民族により違いがあるが、ウズベク民族は、3世代同居が多い。他民族の場合は、各地域から移り住んでいるため、核家族が多い傾向にある。

Q：夫婦間の呼び方について

A：お互いに尊敬し合える呼び方であれば、それほどこだわっていない。

Q：職場における外国人の受け入れについて

A：以前は、一時的な人種差別のような状況もあったが、現在では民族の違いによる区別ではなく、その人自身による。

【サエさん、ディナさんとの主なディスカッション内容】

Q：仕事や文化について

A：サ)女性事務職が多い。中には女性らしさを女性自身が誇張している人もいる。男女平等の意識が高い。

デ) 男性らしさ女性らしさが求められる文化があり、宗教的な教えの影響もある。コーランでは、男性は仕事で女性は家事をするものと言っている。

Q : 教育について

A : サ) 子ども中心で、教育熱心。母子だけ海外へ留学に行き、父親は韓国で働くということとはよくあること。日本にはあまりない発想。

デ) 夫婦が協力して行い、家庭での教育を大切にしている。

Q : 男女平等について

A : サ) 韓国の男女共同参画はだいぶ早くに始まり、現在は落ち着いてきたと感じる。

デ) 国ごとに男女平等の意味や定義は違うと感じる。インドネシアでは、外の空間では女性が知事や大統領になったりしていても、家庭になると進んでいなかったりする。家に戻ったら女性としての立場がある。

《Cグループ》

<前半>ディルさん(ウズベキスタン)・ディナさん(インドネシア)

／ <後半>ネーンさん(タイ)

【ディルさん、ディナさんとの主なディスカッション内容】

Q : 家庭内での男女の役割について

A : ディル) イスラム教の影響により、女性の社会的地位は低い。近年上がってきてはいる。女性は家事、男性が外で働いて稼ぐ、というイメージがある。

ディナ) イスラム人口が多いため、男尊女卑の文化が残っている。女性は家事、男性は仕事。都市部は上記文化が薄れてきた。教育費がかかることも一因だろう。子どもの面倒は、ベビーシッターより祖父母にみてもらうことが多い。

【ネーンさんとの主なディスカッション内容】

Q : 家庭内での男女の役割について

A : タイでは共働き家庭が多い。安く雇えるため、ベビーシッターを雇っている家庭が多い。

女性も外で働きたいと思っている。経済的な目的というより、社会的価値を求めている。

何も仕事をしていないと恥ずかしいという思いがある。結婚相手はお金持ちであるに越したことはないが、離婚したら困るので自分も働く。

Q : タイのことについて

A : タイは金銭的に子どもに甘い。タイでも未婚率は上がっている。

《Dグループ》

<前半>サエさん(韓国) / <後半>ヴィクトリアさん(ウズベキスタン)

【サエさんとの主なディスカッション内容】

Q : 日本に来て驚いたこと

A : 以前、日本のメーカーに勤務していたが、男性が皆スーツ姿で、女性がブルーの作業着姿というように、男女ではっきりわかれていることに驚いた。大学の飲み会に行くと

き、女子が料理をとりわけしていることに驚いた。男子は当然のような様子で、さらにそのような行為をしている女子が、それを女性としての売りにしていることが信じられなかった。韓国では自分で行う。

Q：男女平等の違い（韓国と日本を比較して）

A：日本では女性が大声をだすことは、はしたないこととされているが、韓国では女性でも大声で話をしている。アメリカ的な考えが入ってきているので、風潮としては日本人が思っているほど男尊女卑ではない。

【ヴィクトリアさんとの主なディスカッション内容】

Q：ウズベキスタンの男女平等について

A：ソ連政権時代は、職場でも家の中でも男女は平等な上、共働きがあたり前なので、早く帰ってきた人が家事をしていた。しかし、崩壊後は、昔の日本の家父長制度のようになった。女性はほとんど 20 歳前にお見合い結婚をして（男性も 22、23 歳くらいまでに）主婦になり、男子が生まれるまで子どもを生み続ける。そして 3 世代同居があたり前。離婚も多いが、それは子どもができる前のケースがほとんどで、離婚した女性は実家に帰って働くことが多い。国の支援もあると思うが、具体的な施策はわからない。

Q：日本とウズベキスタンの男女の違いについて

A：日本では、家庭でお財布を預かっているのが女性（妻・母など）だが、ウズベキスタンでは男性がお金の実権を握っている。買い物に行くのも男性。（女性に重いものを持たせないという意味もある）最近ではイスラム化してきているので、男性の中には家族をいくつか持つ人も増えてきた。

平成 29 年度第 2 回市民サポーター会議を、9 月 30 日(土)に開催しました。

交流会の後、小金井市 6 名、国立市 2 名、狛江市 5 名が市民サポーターとして第 2 回会議に出席しました。

◇キャッチフレーズの選定

キャッチフレーズに応募のあった 24 作品の中から、話し合いにより優秀賞作品 1 つを選定した。

受賞作品：「好きな生き方 選べる社会
いろいろな色で 輝いて」

◇啓発物品の選定

キャッチフレーズを載せる啓発物品を検討。“いろいろな色”という言葉に合わせて、「カラフル付箋」を選定した。

